



東京都練馬区高野台 1-16-7 鎮座¹

<御祭神> 須佐之男命^{すさのおのみこと}

氷川神社に奉^{まつ}られている神様の須佐之男命大神は、
夫である伊邪那岐大神・妻である伊邪那美大神の子どもとして
お生まれになり、稲田姫大神を妻として「産霊」(この世のあらゆるものを
産み出す神)の力が強い神様として崇敬^{すうけい}2されております。

<御神徳> 健康守護、病氣平癒、厄除、家内安全、家運隆盛、商売繁盛、学業成就。

<建物> 江戸時代初めに建てられたと伝えられています。何度か場所を移したり、
一部を新しく作り直されました。棟札^{むなふだ}3に「本殿は天保6年(1835年)に建築、
社殿^{しゃでん}4・拝殿^{はいでん}5は、嘉永5年(1852年)の建築」とあります。

1 神霊が一定の場所にしづまっていること。
2 あがめ、うやまうこと。
3 建物が完成したときに棟木という部分に打ち付ける札。
4 神体がまつられているところ。
5 拝むための建物。本殿の前にある。



昭和 29 年(宮司 石塚邦治氏在任時)の改築工事では拝殿の茅葺屋根⁶を
 瓦葺にし、本殿も修復、そして向拝⁷と浜縁を加え硝子入りの格子戸に
 替える大工事でした。造りは本殿と拝殿との間に段差を付けた幣殿⁸(石の間、
 本来は土間)に見立て、権現造り⁹を思わせる建築様式となっています。
 木材は境内¹⁰にあった黒杉が用いられています。

その後、昭和 61 年(9 月完成)に元の位置より社殿全体を引き摺り屋根を
 銅板に葺き替えて、現在の位置に鎮座されています。

<本殿内部> 金山稻荷が合祀¹¹されています。

神社に伝わる記録によると、御祭神は「宇稻魂命」で、
 旧 谷原村(現 谷原・高野台・富士見台)の鎮守¹²となっています。

⁶ スゲ、ススキ、チガヤなどで覆った屋根。

⁷ 礼拝するところ。

⁸ お参りに来た者が神前への供え物をささげる場所。拝殿と本殿の間にある。

⁹ 本殿と拝殿を石または相の間でつないだもの。日光東照宮など。

¹⁰ 寺や神社の敷地の中。

¹¹ 2 柱以上の神を 1 つの神社にまつこと。ある神社から移して一緒にまつこと。

¹² 鎮守神をまつた神社のこと。

はいでん
<拝殿内部>江戸時代からの大絵馬^{おおえま}十数枚が奉納^{ほうのう}¹³されています。

あんせい
安政6年（1859年）から万延年間（1861年）の物が古く、大部分が
明治のものです。そして奉納絵馬^{ほうのうえま}に混じって日露戦争^{にちろせんそう}、太平洋戦争^{たいへいようせんそう}の
しゅっせいきねんがく^{かか}¹⁴が掲げられています。



けいだいまっしゃ
<境内末社>「皇太神宮」(天照大神)、^{あまてらすおおみかみ}「八幡神社」(応神天皇)、^{やわた}「春日神社」(天児屋根命)
の三つの神社の神様が奉^{まつ}られています。もとは「長命寺」というお寺の境内^{けいだい}
にあり明治元年3月の神仏分離令^{しんぶつぶんりれい}¹⁵によって、氷川神社に移されました。

けいだいせっしゃ
<境内摂社>国廣稻荷で、御祭神は「保食命」(明治7年4月2日神社庁へ届け出)が
^{ちんざ}鎮座されています。建てられた時期は本殿内の金山稻荷^{ほんでん}と同時代と
思われます。

¹³ 神や仏に芸や物をささげること。

¹⁴ 軍隊に加わって戦地に行くこと。

¹⁵ 神と仏を一緒にすることをやめ、別々にしようというもの。神道と仏教。明治元年の政府の宗教政策。

けいがいらいしゃ いちきしま おさいじん いちきしまひめのみこと ちんざ
<境外来社> 市杵島神社 御祭神「市杵島姫命」(東京都練馬区高野台 2-85-9 に鎮座)

通称(箕輪築真弁財天)江戸時代に建てられたと伝えられています。

明治24年4月3日社殿を造り、旧谷原と高松の農家が湧き水を利用し
4町5反歩¹⁶の水田を耕作していた。

平成10年11月社殿の新築及び境内整備を行ないました。



- <石造物¹⁷>・明神¹⁸系の鳥居(昭和61年)…以前は木造の両部鳥居であった。
- ・御手洗石¹⁹(文政12年)
 - ・狛犬(大正7年)神社の守護、あるいは魔除けのためにあるとされる。
 - ・石工²⁰今井亀鶴泉による彫刻(社拳の石塚喜久松の名も刻名されている。)
 - ・社号標²¹(昭和15年)
 - ・改修記念碑(昭和29年)
 - ・春日燈籠…(大正4年)と、昭和50年に奉納された燈籠がある。
 - ・慰霊碑(昭和34年)…神宮祭主・北白川房子様 直筆
 - ・玉垣造宮境内整備竣工記念碑(平成21年8月)

<御神輿倉> 子供御神輿(大)が2輿、子供御神輿(小)が2輿

<山車倉> 大太鼓の山車²基

¹⁶ 町=約99.18アール。反=約10アール。

¹⁷ 石で造られたもの。

¹⁸ 神を仏教側から呼ぶときの称。

¹⁹ 「御手洗(みたらし)」とは参拝する前に手を洗い、口をすすぐところ。

²⁰ 石を細工する職人。

²¹ 神社の名前を石柱などに刻んで建てたもの。

<樹木> 〔三社宮前の黒松〕昭和天皇^{ごそく}御即位記念樹

〔楠木〕今上陛下金婚記念樹として睦盆栽会が植樹。記念碑あり（昭和49年）

〔ねりまの名木〕ヤブツバキ保護樹木

第933号

区内有数の大きさから指定。

昭和61年9月1日

樹の高さ8.5m、幹の太さ1.1m



<お祭り> 例大祭^{れいたいさい}29月15日（御神輿^{おみこし}渡御^{とぎよ}23の年のみ10月第2土曜、日曜）にかけ、
子供神輿^{みこし}と大太鼓^{だいだいこ}の山車^{だし}が盛大に町内^{じゆんこう}を巡行します。

また、夜は境内において、高野台・谷原町会女性部の皆さんが中心になり
輪踊^{わおどり}等の奉納^{ほうのう}があり、大変な賑わい^{にぎ}を見せています。

<谷原囃子>谷原氷川神社の祭礼に付随する「田^{ふすい}^{たぶちりゅう}^{なかまぼやし}流中間囃子」で井草囃子より伝えられた
たものです。平成16年3月、練馬区の登録文化財となっています。

会長 田口修弘、副会長 増島誠一

会員 横山實、横山進、横山光治、増島利夫、宮部和也、横山勝幸、増島兼吉、
増島一男、豊田清、増島清の12名で構成されています。

²² 1年に1~2回、その神社で定められた日に行われるお祭り。

²³ 神様が乗り物（おみこし）に乗り、町内を巡ること。

谷原氷川神社 年中行事

- 1月1日 元旦初詣会（昭和59年正月発足）
御神酒・甘酒の接待（午前0：00～午前2：00）
- 1月2日 ^{さいたんさい}歳旦奈（元旦祭）
年の初めに年神様をお迎えして一年の平穩を祈る集り
- 2月26日 ^{きねんさい}祈年祭（としごいのまつり）
その年の穀物の豊穰を乞い廟うとともに、国家安泰を祈諦する集り
- 5月15日 ^{ふせぎさい}防伎祭（^{みちあえさい}道餐祭）
災いをなす疫神の来襲に備えて村境等に^{しめなわ}注連縄を張って退治する集り
- 市杵島神社祭礼（通称；^{みのわちくしんべんざいてん}箕輪築真弁財天）高野台2丁目
- 6月26日 ^{おおはらえさい}大祓祭（^{なつごし}夏越の^{はら}祓い）
身体その他全体を^{はら}祓い^{つみけがれ}清め^{はら}罪穢を^{はら}祓い去る祭り。
- 9月15日 ^{れいたいさい}例大祭（年に一度の氷川大神を称え祝いまつる大祭）
隔年にて10月に執行（子供神輿・山車の町内巡行）
- 11月上旬 七五三 子供の成長を祈る祭り
- 11月23日（26日）^{にいなめさい}新嘗奈（しんじょうさい）
作物の豊作を感謝し祝う祭り
- 12月26日 ^{おおはらえさい}大祓祭
一年の^{つみけがれ}罪穢を^{はら}清め祓い、新年を迎えるための祭り
- 12月31日 初詣会準備（実行委員会）

< 生い立ち（歴史） >

氷川神社は、古代出雲の※1^{いずも}簸川^{ひのかわ}の上に、人命の根元^{こんげん}²⁴である湧水を水の神として^{まつ}祀ったのが始まりという。

その昔、石神井に^{じょうかく}城郭²⁵を構えた豊島氏は、城内に^{うじがみ}氏神²⁶として^{むさし}武蔵の国一の宮「氷川の神」を^{かんじょう}勧請²⁷して石神井氷川神社とした。戦国の世、^{むらおさ}村長であった横山氏も豊島氏を^よ寄り^{おや}親²⁸として他からの侵略に備えていたであろうと思われる。横山氏も豊島氏に^{なら}倣い、

ヒイカワ

※1 斐伊川上流部の古称

²⁴ 物事の1番もとになっているもの。おおもと。物事の始まり。

²⁵ お城と囲い。

²⁶ 一族の祖先としてまつる神。その土地の神。

²⁷ 神様や仏様が来てくださるように請うこと。

自邸砦内の聖地を選び、この「氷川の神」を分けてもらって豊島氏の^{よりに}寄子衆、横山氏神社とした。これが谷原氷川神社の始めと想像される。

<^{てんりょうち}天領地²⁹となった谷原村>

文明9年（1477）4月、石神井城が^{らくじょう}落城³⁰し豊島氏滅亡後、たび重なる戦乱の世も落ち着きを取り戻しつつある中、天正18年（1590）8月、徳川家康が^{かんとうだいだいみょう}関東大々名³¹として土地を移動してきた時、この石神井郷谷原村は、^{ちぎょうち}知行地³²として増島重国によって治められた。徳川政権への移行とともに寛永16年（1639）^{てんりょう}天領として整備されていった。また、寛永17年（1640）9月18日には改めて^{コクゲンザン}谷原山妙楽院長命寺（^{そうけん}創建は慶長18年）となり、^{しんごんしゅう}真言宗豊山派の一つとなった時であった。

28 主従関係を結んでいる中の、主のこと。

29 江戸時代において、江戸幕府が持つ直轄領のこと。

30 敵に城を攻め落とされること。

31 大々名とは十万石以上の土地を持つ大名のこと。

32 江戸時代、武士に対して与えられた土地。

<谷原村の鎮守神>

旧地※2 金山郭一帯には、横山氏一族の墓所^{ほしよ}や守り神の氷川社、
稲荷神社^{いなりじんじや}がそのまま残されていた。

これらを元横山^{とりで}砦（金山郭）の※3本丸跡に、荒れ果てていた
氷川社を再建し、※4 二の丸にあった金山稲荷も合わせて谷原村
の鎮守社^{ちんじゆしゃ}とした。

『新編武蔵風土記稿』には、「氷川社、村の鎮守なり。」

長命寺^{ちやうめいじ}の持、稲荷社^{いなりしやぞう}三、一は国廣^{くにひろいなり}稲荷、一は金山^{かなやまいなり}稲荷と称す^{しょう}

とある。氷川神社は次第^{しだい}にその地の寺院に所属するようにな
って、やがて長命寺別当^{ちやうめいじべつとうしや}社となり、氏神^{うじがみ}から村の鎮守神^{ちんじゆしん}として
崇められ村が一つになる中心となっていた。

※2 現在の高野台1丁目13番～23番くらいの所。

広さ約4万平方メートル。

※3 現在の氷川神社周辺

※4 現 長命寺駐車場一帯と推定

※5 江戸幕府が編集した唯一の武蔵国^{ちし}の地誌

新編武蔵風土記稿

谷原村ハ石神井郷ニ屬ス北條役帳ニ太田新六郎知行寄子衆配當一貫七百文石神井
内谷原在家岸分ト載ス是ニ據レハ古ハ石神井村ニ屬セシ池ナラシ日本橋ヨリ五里
民家百十東ハ上練馬村西ハ下石神井村南ハ田中村北ハ土支田村東西十二丁南北十
丁許用水ハ石神井川ヲ沃ケリ檢地ハ寛永十六年興津角左衛門會根與五左衛門淺田
次左衛門豐田基右衛門延寶二年中川八郎左衛門關口作左衛門紀セリ御打入り後増
島左内ニ賜リ慶長年中取公セラレテ後御料所トナリ今ニ然
高札場^{村ノ北}
小名 箕輪 西原 北原 中通り 蕪ヶ谷戸 七子竹
石神井川^{村ノ北} 二間半^北 〇千川上水堀^{村ノ北} 二間^北
氷川社^{村ノ北} 持守^下 同^下 長^下 〇稲荷社^{三金山} 稲荷^一 稲荷^一

<明治維新>

新政府によって明治元年3月神仏分離令^{しんぶつぶんりれい}の発表により、これまでの別当^{べつとう}長命寺^{ちやうめいじ}は外され、
新たな神官^{しんかん}が任命された。谷原氷川神社は江戸京橋の恵比寿稲荷神官^{やばら えどきようばし えびすいなりしんかん}であった石塚応源^{いしづかおうげん}の
所管^{しよかん}³⁴するところとなる。同時に寺院の人別帳^{にんべつちやう}³⁵は過去帳^{かこちやう}³⁶となり、新たな神社氏子帳^{じんじやうじちやう}に替え
られた。

33 専任の長官。役職の名前。

34 権限を持って管理すること。

35 江戸時代の戸籍。

36 仏具。死亡したときの記録。

この時の^{うじこそんめいちょうしょ}氏子村名調書によると、『^{やはらむらちんざひかわじんじゃ}谷原村鎮座^こ氷川神社106戸、659人、^{さいじんすきのおのみこと}祭神須佐之男命』とある。以来、谷原の「^{うぶすなのかみ}産土神³⁷」として村民は総て氏子とし、明治39年（1906）には^{じんじゃごうしれい}神社合祀令³⁸が出された。

<昭和の氷川神社>

明治以降、太平洋戦争終結の昭和20年（1945）8月までの78年間は、正に^{しんとう}神道³⁹日本国であり軍国日本であった。「^{うぶすなのかみ}産土神」は地域の中心であり、この村で生まれた者は、誕生、^{たいかい}帯解（七五三）、入学、^{にゅうえい}入^{しゅっせい}営、^{がいせん}出^{かんれき}征、⁴⁰凱旋、還暦等、人生行事を行なう際には必ずここに参拝して報告した。^{にゅうえい}入^{しゅっせい}営、^{がいせん}出^{きちやくち}征となるとここが村の出発地であり凱旋の帰着地でもあった。

神社の運営も増島宗家が総代表となり、村内106戸の^こ氏子^{うじこ}代表が世話人となって運営維持された。

<氷川神社から分立>

昭和7年10月、東京市板橋区石神井谷原町となり、谷原が一丁目・二丁目^{ぎょうせいぶんかつ}に行政分割された時、「^{かぶら}蕪ヶ谷戸」といわれた。旧谷原村一丁目（現 富士見台）はこの時、その地にあった「^{みたけじんじゃ}御嶽神社」を^{ちんじゆしん}鎮守神として、氷川神社から分立した。

<宗教法人 氷川神社>

神社本庁に所属し宗教法人に登録されている氷川神社は、東京都内67社、埼玉県に210社、神奈川県10社の計287社で、全部が関東地域内にあり、練馬区内には6社となっている。いずれも^{せいりつねんだい}成立年代⁴¹の古い^{しゅうらく}集^{ちんざ}落に鎮座していると調査されている。

<谷原氷川神社>

昭和26年2月に宗教法人氷川神社として発足。その後、昭和40年4月1日、住居表示で旧谷原一丁目は富士見台、旧谷原二丁目は高野台と谷原に分轄となり、町会組織内に神社部会が設けられ、^{せんじん}理事が⁴²選任された。この理事が神社役員に代わって「町会貞は総て^{うじ}氏子」という当時の^{かんねん}観念から発足し、町会主導の神社運営へと移行されていったが、やがて町会関与も^{うちきり}打切⁴³となった。

37 生まれた土地の神。

38 神社の合併政策のこと。複数の神様を1つの土地に納める。

39 一般に神社を中心とする信仰、儀礼。

40 戦いに勝って帰ること。

41 物事が成り立った年。

42 選び任せること。

43 途中で終わりにする。中止すること。

昭和 59 年正月からは元旦初詣会がんとんはつもうでかいが発足し、数千人の参拝者が訪れるようになった。

秋の七五三祝いには可愛い子供達で賑わい、例大祭（子供神輿渡御）も隔年毎かくねんごとに行なわれ、今日まで維持されている。

現在は、松野利行 宮司を始め、高野台地区・谷原地区より責任役員総代せきにんやくいんそうだい4 名と総代そうだい20 名が役員となって維持運営に当たっている。

参考資料：「練馬高野台長命寺考」増島忠之助著。「長命寺考余聞」増島一穂著。
「神道のすべて」菅田正昭著。「刀剣要覧」飯村嘉章著。
「図録 農民生活史事典」秋山高志、北見俊夫、前村松夫、若尾俊平著。
資料提供：宗教法人（豊玉）氷川神社。協力：練馬区教育委員会 生涯学習課文化財係。

監修：氷川神社 宮司 松野利行。

編集：谷原氷川神社「由来」編集委員会

杉浦政雄、増島隆行、田口修弘、横山茂樹、豊田守。

発行日：平成 22 年 6 月 26 日

発行所：宗教法人（谷原）氷川神社 〒117-0033 練馬区高野台 1-16-7 電話 03-3996-4864